

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	基礎的基本的学習内容の定着・活用を目指して学習環境を整え、指導の工夫に努める。教員の授業力を高めるために、重点研究に取り組む。	学習のめあてや本時の学習課題を明確にし、子どもが見通しや達成感をもてるよう工夫し授業に取り組んだ。今年度の研究成果をもとに、更に教師の授業力向上を図りたい。	A B C D
2 豊かな 心	道徳・特別活動の時間はもとより、各教科・領域の授業、学校での全教育活動において、人とのかかわり合う場面を重視して、自他を大切にしている心情や態度を育てる。	本校の特色の一つ縦割りのなかよし活動を中心に、よい雰囲気の流れが様々な場面で見られた。子ども同士の温かいかわりを増やし、自尊感情が高められる関係づくりを積み重ねたい。	A B C D
3 健やかな 体	全校学校保健委員会での学習を生かし、自分の体に興味をもって健やかな体をつくらうとする態度を育てる。「長縄」で体力向上を目指す。	全校で行う学校保健委員会は、ねらいやめあてが共通理解され、子どもの健康に対する意識が高まった。年間通した「長縄」の取組でスキルが向上し、学級の絆が深まった。	A B C D
4 教育課程 ・ 学習指導	授業改善を進め、基礎学力向上を図る。重点研究を算数科とし、問題解決学習を進める。自分で考え伝えるコミュニケーション能力の向上を図る。全ての教科で言語活動を重視する。	算数科を中心に、授業の流れや子どもが自分で考えをもつことへの支援の仕方、考えを伝え合う小グループでの話し合いのもち方など、授業研究に成果が見られた。各教科の言語活動を充実させるよう、取組を考えていきたい。	A B C D
5 児童指導	月2回のSCによる教育相談を行う。生活目標を「あいさつ・時間・廊下歩行」に重点化し、全教職員で指導する。学年研やブロック研で児童理解を深め、効果的、組織的な児童指導を行う。他者理解、認め合う豊かな心を育成する。	児童支援専任を中心にスクールカウンセラーと連携し、保護者や教職員の教育相談を充実させたり、子どもの話を傾聴して早期問題解決につなげたりすることができた。子どもを豊かに育むためにも、あいさつ・廊下歩行については、今後も工夫する必要がある。	A B C D
6 地域連携	支援本部を核とし、地域の教育力を生かした教育を推進する。学校・地域コーディネーター・九つの学校支援隊が連携し、子どもが学校支援隊と好ましいかわりを持ち、まちを愛する子どもを育てる。	百人を超える学校支援隊を広く知ってもらうため、学校・地域コーディネーターが中心となり、様々な新しい取組が行われた。地域に愛されている子どもが、自分も地域の一員であるという意識をもてるよう支援していきたい。	A B C D
人材育成 組織運営	研修や日常的な授業参観・情報交換を通して、授業や児童指導対応の実践力を高める。また、学年主任会やメンターチーム会の場を通して、キャリアに応じた能力開発・育成をする。	学年主任会では、毎月、テーマを絞って児童指導や若手育成について話し合い経営力を磨いた。学年主任は、日常的に学年内の情報共有や授業参観をし、若手の能力向上に貢献した。会議の精選をして時間の確保に努めたい。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価課	小学校、中学校でそれぞれ授業参観の日を設け、全職員が参観する態勢をとることができた。中学校の授業参観では、教科ごとに授業研究会を行って意見交換した。小学校の授業参観では、全体会で一人ずつ感想を述べる形であったため、来年度は小学校でも研究会を実施する方向を考慮したい。
学校関係者 評価結果	算数科を核とした授業改善、全校で取り組むなかよし活動、学校保健委員会など、共通理解されたねらいの下で、子どもの育ちに成果が見られ評価できる。地域や教師の丁寧なかかわりにより、子どもは元気に生活を送っている。小中連携での実践を授業に生かしてほしい。あいさつがよりできるようになるため、保護者からの積極的な声かけがほしい。学校支援隊が好ましい形で継続していくことが大切である。
評価結果に 対する 学校の見解	小学校の授業研究会に中学校職員が研究会まで参加できるよう、日程調整をしていく。年3回のまちづくり懇話会では、授業参観を行うとともに教育方針や具体的取組を報告することができ、理解を得られた。各学年・学級懇談会をより工夫し、参加率を上げたい。学校・家庭・地域が連携して、児童の社会的育成に努めたい。

学校経営 中期目標 達成状況	児童指導では、早期発見・対応に努めた。より深い児童理解の下、自尊感情を育てる教育活動を意識していきたい。地域連携では、学校支援本部の活動が充実し、まちと共に子どもの育成をすることができた。重点研究を通して、算数の授業力が向上しつつある。さらに研究を深め、学力向上をめざしたい。今後も『授業と児童指導』を本校の柱、『地域連携』を特色にして、学校経営に取り組んでいく。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	基礎的基本的学習内容の定着・活用を目指して学習環境を整え、指導の工夫に努める。教員の授業力を高めるために、重点研究に取り組む。	学習のねらいや本時目標を理解し子どもの実態に合った学習課程を考えるよう工夫した。重点を置いた算数科、読書教育での成果を今後も継続する。	A B C D
2 豊かな 心	道徳・特別活動の時間はもとより、各教科・領域の授業、学校での全教育活動において、人とのかかわり合う場面を重視して、自他を大切にしている心情や態度を育てる。	縦割りのなかよし活動では保護者から非常によい評価をいただいた。学年間の交流でも温かいふれあいを大切に、学習や行事に取り組んだ。他を思いやる心を継続して育てていく。	A B C D
3 健やかな 体	全校学校保健委員会での学習を生かし、自分の体に興味をもって健やかな体をつくらうとする態度を育てる。なわとびで体力向上を目指す。	掃除をテーマに取り組み、全校共通して取り組んだ。年間を通して行った長縄、後期の短縄の取組で、個々のスキルアップ、持久力につながった。	A B C D
4 教育課程 ・ 学習指導	授業改善を進め基礎学力向上を図る。算数科では課題をつかみ算数的に表現しながら深めたり、考えることを楽しみ進んで学習に取り組んだりする子を育てよう工夫する。全ての教科で言語活動を重視する。	二年目の算数科の重点研究では、子ども、教師共にさらに学習方法が定着し考えることへの意欲が増した。よりねらいに迫る授業展開を工夫していく。言語活動の重視における各教科の具体的な取組についても考えていきたい。	A B C D
5 児童指導	月2回のSCによる教育相談を行う。生活目標を「あいさつ・時間・廊下歩行」に重点化し、全教職員で指導する。学年研やブロック研で児童理解を深め、組織的な児童指導を行う。いじめ未然防止に取り組み、認め合う豊かな心を育てる。	時間を守る意識は高まったがあいさつ・廊下歩行においては課題が残る。全職員で子どもを共通理解する場を設け、児童指導専任の早期問題把握とSCの教育相談により子どもの心を聴いて理解し解決する努力をしている。	A B C D
6 地域連携	支援本部を核とし、地域の教育力を生かした教育を推進する。学校・地域コーディネーター・九つの学校支援隊が連携し、子どもが学校支援隊と好ましいかわりを持ち、まちを愛する子どもを育てる。	九つの学校支援隊と窓口担当、コーディネーターが連絡を取り合い、子どもの学習や環境をサポートする組織と態勢が整っている。子どもの活動によりよく生かされるよう今年度の振り返りをもとに改善していきたい。	A B C D
人材育成 組織運営	研修や日常的な授業参観・情報交換を通して、授業や児童指導対応の実践力を高める。また、学年主任会やメンターチーム会の場を通して、キャリアに応じた能力開発・育成をする。	校内研修で児童理解、指導対応のスキルアップを図った。学年主任会では全校の共通理解の徹底や若手の育成について意識の向上を図り、中堅層育成の場とした。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価課	小・中学校でそれぞれ授業参観の日を設け、全職員が参観する態勢をとった。小学校の授業参観では授業を三か所に限定し、低中高に分かれて研究会を行った。少人数で充実した時間をもつことができた。中学校の授業参観では各教科に分かれて話し合った。双方の求めている学習内容について、理解を深めた。
学校関係者 評価結果	なかよし活動における学年を越えた取組は互いのよい関係をつくり、心身の成長に深くかかわる。全職員が一人一人を理解し情報の周知、連携の徹底を感じる。豊田の地域連携は貴重な体験と地域の方とのふれあいができすばらしい。今後も発展継続してほしい。「学力・心・体」のバランスよい成長を期待したい。あいさつは家庭でもっと意識し大人がよい手本になることが子どもの豊かな成長に繋がる。
評価結果に 対する 学校の見解	昨年度の振り返りをもとに小学校でも授業研究日を設定し、小中連携した一貫教育の推進を図った。地域連携の取組は、学校支援本部が中心となり子どもの豊かな成長のためにすばらしい活動を展開している。教職員が協働できることを改めて考えていきたい。家庭とも連携しながらあいさつ、読書教育の取組に努めたい。

学校経営 中期目標 達成状況	学力向上に向けて、読書活動推進や基礎基本の定着をめざし、一部では成果が感じられるようになった。児童指導では担任と支援専任の役割が明確になり、支援を必要としている児童に適切な時期と内容で支援が行われるようになった。地域の支援を得て5年生の初めての水田での米作りが成功するなど、地域連携による教育活動が充実したものとなった。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	基礎的基本的学習内容の定着・活用を目指して朝学習の時間を使い、指導の工夫に努める。授業力を高めるために、重点研究に取り組む。		A B C D
2 豊かな 心	道徳・特別活動の時間はもとより、各教科・領域の授業、縦割りのなかよし活動、学校での全教育活動において、人とのかかわり合う場面を重視し、自他を大切にしている心情や態度を育てる。		A B C D
3 健やかな 体	全校学校保健委員会での学習を生かし、自分の体に興味をもって健やかな体をつくらうとする態度を育てる。なわとびで体力向上を目指す。		A B C D
4 教育課程 ・ 学習指導	授業改善を進め基礎学力向上を図る。算数科では課題をつかみ算数的に表現しながら深めたり、考えることを楽しみ進んで学習に取り組んだりする子を育てよう工夫する。全ての教科で言語活動を重視する。		A B C D
5 児童指導	月2回のSCによる教育相談を行う。生活目標を「あいさつ・時間・廊下歩行」に重点化し、全教職員で指導する。学年研やブロック研で児童理解を深め、組織的な児童指導を行う。いじめ未然防止に取り組み、自己肯定感を高め、他を認め合う豊かな心を育てる。		A B C D
6 地域連携	支援本部を核とし、地域の教育力を生かした教育を推進する。学校・地域コーディネーター・九つの学校支援隊が連携し、子どもが地域の人たちと好ましいかわりを持ち、地域の一員としてまちを愛する子どもを育てる。		A B C D
7 人材育成 組織運営	研修や日常的な授業参観・情報交換を通して、授業や児童指導対応の実践力を高める。また、学年主任会やメンターチーム会の場を通して、キャリアに応じた能力開発・育成をする。		A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価課	小・中学校それぞれ授業参観の日を設け、全職員が参観する態勢をとった。小学校における参観では全学級を参観対象とし、自由に観ていただくようにした。その後、低・中・高・個別部会に分かれて研究会を行い、話し合いを行った。双方が望むことや思いを伝えて討議し、互いに共有することができた。
学校関係者 評価結果	
評価結果に 対する 学校の見解	

学校経営 中期目標 達成状況	
----------------------	--

